

その26

# 沖縄美ら海水族館「オープン！」

沖縄の本土復帰三十周年記念事業の一環として、本部町の国営沖縄記念公園海洋博覧会地区内に建設が進められていた「沖縄美ら海水族館」が十一月一日、オープンしました。



米田健三内閣府副大臣



中馬弘毅国土交通副大臣

オープン当日は一般公開に先立ち、沖縄総合事務局が主催する開館式典が行われ、中馬弘毅国土交通副大臣、米田健三内閣府副大臣をはじめ、国や県、本部町、水族館関係者約四百六十名が出席されました。

式典は、オープニングアトラクションとして、真境名本流真境名結子琉舞道場による琉球舞踊が拾うされた後、午前十時から水族館入り口へと続く海人門（ウミンチュゲート）で行われました。

来賓挨拶のなかで中馬副大臣は「大変迫力のある施設となった。沖縄観光、北部発展の拠点になることを大いに期待する」と式辞を述べられ、続いて米田副大臣から「北部地域、沖縄の更なる振興に奇与できるよう全力を挙げたい」との挨拶がありました。

式典終了後、水族館入り口となるめんそーれプラザにおいて、全国公募の中から選ばれた「沖縄美ら海水族館」の名付け親である仲里美沙樹さん（小学六年生）をはじめ、関係者十五名によるテープカットが行われ、式典列席者の入館に引き続き、午前十一時から一般公開が始まり、平日にもかかわらず約一千二百名の来館者が「沖縄美ら海水族館」の初観覧を楽しまれました。

世界最大級の水槽を有する同水族館は、世界初の試みとなるサンゴの大規模飼育展示や、ジンベエザメの複数飼育など魅力ある数多くの特徴を備えています。本施設は四階建て、延べ床面積は一万九千平方メートルの規模を誇り、館内は、「サンゴ礁への旅」、「黒潮の海への旅」、「深海への旅」の三つのテーマゾーンで構成されています。

今回の「沖縄美ら海水族館」のオープンには、今後の沖縄県における観光振興に更に大きく貢献するものと期待されています。



関係者によるテープカット